

* 「神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」 (使徒2 : 47) ペンテコステ (聖霊降臨) のあと救われる者が次と起こされた。その直接的原因は人々の心の中に罪の悔い改めが起こり、バプテスマを受け、聖霊が彼らの中に住まわれたからである。その結果、教会が生まれ、すべての民 (実際は大多数の人たち) に教会は好意を持たれた。さらにその結果、救われる人達が起こされたのである。従って、救われる人達が起こされる要因の最も大切なことは、「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」 (使徒2 : 42) とある通り、彼らがこれら信仰による行い4つに熱心であったこと、すなわちイエス・キリストの証をすることが、外の人たちに良い印象を与えていたのである。

もしも救われた人たちの集まりが外の人たちに受け入れられなければ、その信仰は本物ではない。偽物の信仰では人々は好意を持たない。異端のように、一見、本物のようにも、中身は間違っているならば、いずれ破たんする。滅びる。しかし私たちは主から与えられた本物の信仰をもっている。自信を持ってよい。

* 私たちクリスチャンは、イエス・キリストがまことの救い主であるということの人々に伝えることを主から託されている。私たちはキリストの使節である。使節としての働きは、先ず、キリストの証人としてキリストの香りを放っているかどうか問われる。教会の中だけでなく、家庭や社会でもどのように生きているか問題である。多くの欠点や弱点があり、罪を犯すけれども謙虚である、あの人の中には何か光るものがある、何か違う良い香りがある、といわれるような人になりたい。そのような真のキリストの証人になるには、先の4つのことに熱心になることは必要であるが、聖霊がさせてくださるのだということを認識したい。

* しかし、裏腹に、クリスチャンの仲間の集まりに熱心になる余り、教会の外の人たちに関心が向かないという過ちをおかさないようにしないとイケない。教会の人はいい人だが、いつも彼らだけで集まっている、敷居が高くて入りづらい、という批判や感想を持たれないように古河教会も教会活動や宣教活動をしてきたが、救われる魂がどんどん起こされるためには、外に向かってよく考え、実行しなければならない。まだキリストを知らない人たちが普段何を考え、どのような痛みがあり、何を必要としているか等に常に関心を持ち、彼らの実情に寄り添う行動を起こしていかなければならないと思う。